

2025年度 第4四半期 決算説明資料

2026.4.22

将来の見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

通期決算ポイント



こちらのスライドは 通期決算のポイントをまとめたものです。

参考としてご覧ください

四半期決算 概要



(単位：百万円)	FY2025	FY2025	QoQ		FY2024	YoY	
	4Q	3Q	差額	(%)	4Q	差額	(%)
売上高	133,060	109,291	23,770	21.7%	120,716	12,344	10.2%
売上総利益	94,402	78,064	16,338	20.9%	84,218	10,184	12.1%
GP率	70.9%	71.4%	-0.5p	-	69.8%	1.1p	-
販売管理費	35,625	30,723	4,902	16.0%	32,482	3,142	9.7%
営業利益	58,777	47,340	11,436	24.2%	51,735	7,042	13.6%
経常利益	58,484	46,985	11,499	24.5%	51,863	6,621	12.8%
経常利益率	44.0%	43.0%	1.0p	-	43.0%	1.0p	-
税前利益	58,437	46,801	11,636	24.9%	51,504	6,933	13.5%
純利益	42,881	36,726	6,155	16.8%	38,638	4,243	11.0%

売上高： YoY 機械装置の検収進捗および消耗品出荷堅調により増収
 GP率： YoY 高付加価値製品の貢献および為替影響により収益性向上
 販売管理費： YoY 人件費や研究開発費が増加

1-3月期の決算概要です。売上高は機械装置の検収進捗に加え、消耗品出荷が堅調だったことから四半期最高を記録しました。

なお、売上高は顧客の設備投資意欲と直接の連動性は低く、装置の検収状況に左右されやすいため、顧客の投資意欲をはかる上では「出荷額」の推移をご参照ください。

※2019年度（2019年4月～）より会計方針の変更により、装置売上は、顧客の検収をもって計上する「検収ベース」へと移行しております。

1-3月期業績概要（売上高および各段階利益はいずれも四半期最高を記録）

売上高：1,330億円

GP率：70.9%

販管費：356億円

営業利益：587億円

為替レート

当四半期 1-3月期 USD:156.5円 EUR:183.5円

前四半期 10-12月期 USD:155.7円 EUR:181.4円

前年同期 1-3月期 USD:151.2円 EUR:159.3円

※各種データは、当社Webサイト上「補足情報」（Excelファイル）に掲載

通期決算 概要



(単位：百万円)	FY2025 Full Year	FY2024 Full Year	YoY	
			差額	(%)
売上高	436,889	393,313	43,576	11.1%
売上総利益	306,477	277,570	28,907	10.4%
GP率	70.1%	70.6%	-0.5p	-
販売管理費	121,487	110,736	10,751	9.7%
営業利益	184,989	166,834	18,156	10.9%
経常利益	184,936	168,943	15,993	9.5%
経常利益率	42.3%	43.0%	-0.7p	-
税 前 利 益	183,811	168,146	15,665	9.3%
純 利 益	135,521	123,891	11,630	9.4%

売上高： 生成 A I 向けを中心に装置の出荷増・検収進捗により増収
 GP 率： 製品・用途構成の変化で僅かに低下も高水準を記録
 販売管理費： 人件費や研究開発費を中心に増加

通期の決算概要です。

2025年度は、生成 A I の需要拡大を背景に装置需要が継続したことから年間の出荷額は過去最高となり、装置検収も進捗したことで売上高は過去最高を記録しました。

収益性については、前年度から僅かながら低下していますが、引き続き高付加価値製品などの寄与により、通期でのGP率は70%台と高水準を記録しました。

販売管理費は人件費や研究開発費を中心に増加していますが、増収により各段階利益（営業利益・経常利益・純利益）はいずれも最高益更新となりました。（6期連続最高益更新）

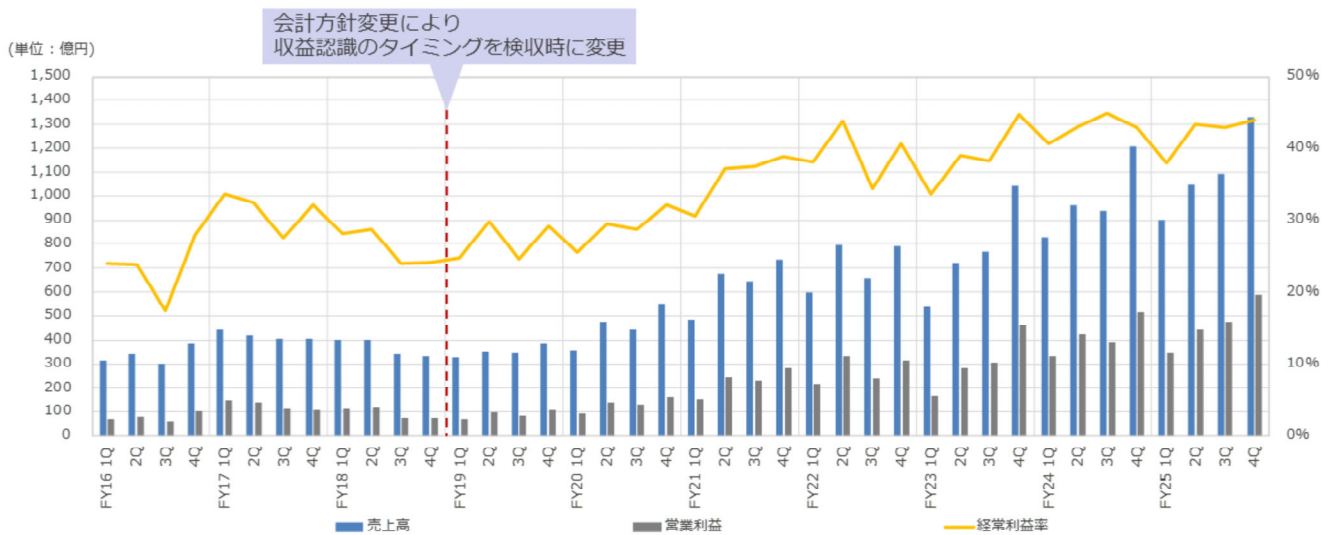
参考：為替レート

当年度 通期 USD:151.2円 EUR:175.7円

前年度 通期 USD:152.6円 EUR:163.7円

※売上高は顧客の設備投資意欲と直接の連動性は低く、装置の検収状況に左右されやすいため、顧客の投資意欲をはかる上では「出荷額」の推移をご参照ください。

業績 四半期推移



FY25_4Q 営業利益率44.2% 経常利益率44.0% 純利益率32.2%
※数値推移は、Webサイト「補足情報」に記載

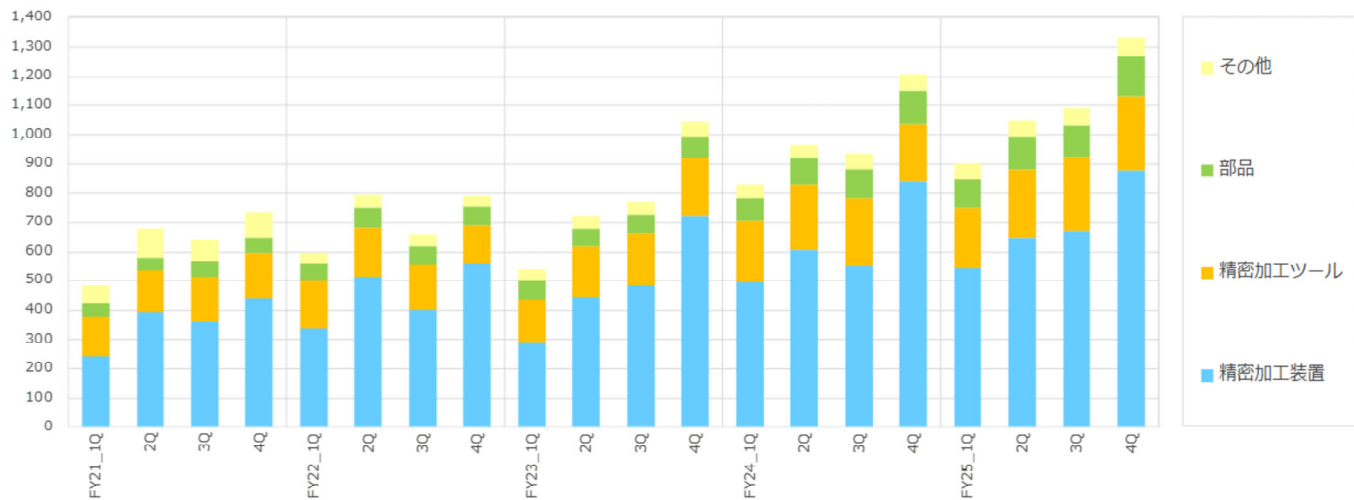
四半期別の業績推移です。

詳細については、当社Webサイト上に「補足情報」(Excelファイル)を掲載しておりますので、あわせてご参照ください。

製品群別売上高 四半期推移



(単位：億円)



※構成比数値は、Webサイト「補足情報」に記載

製品別の売上高推移です。

詳細な構成比については、当社Webサイト「補足情報」(Excelファイル)をご参照ください。

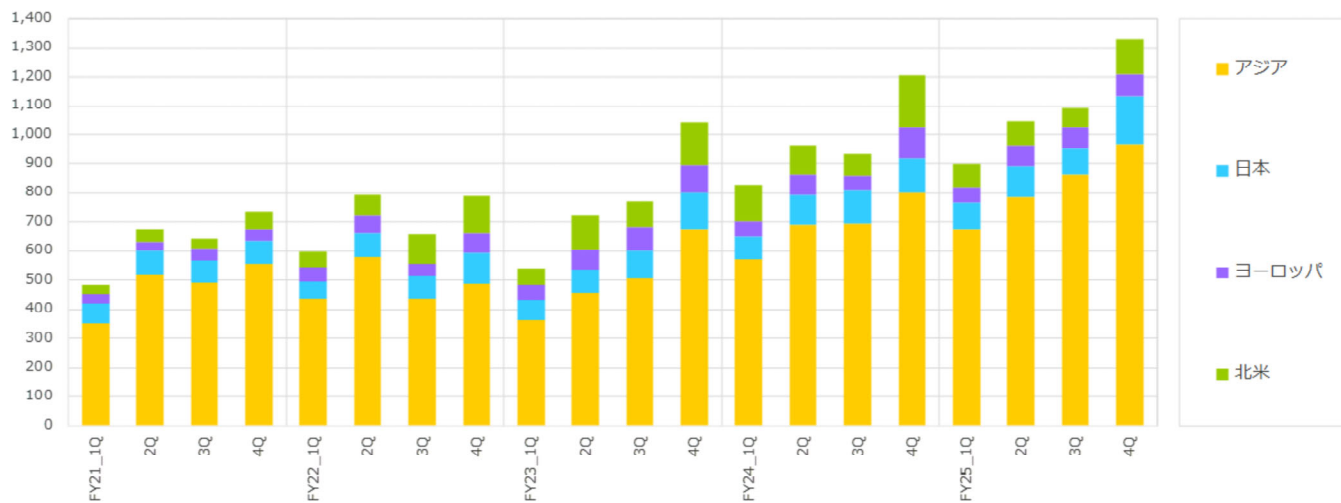
※2019年度(2019年4月~)より会計方針の変更により、装置売上は顧客の検収をもって計上する「検収ベース」へと移行しております。

それ以外の「精密加工ツール」「部品」などの製品群は、従来と同じタイミングでの売上計上となっています

地域別売上高 四半期推移



(単位：億円)



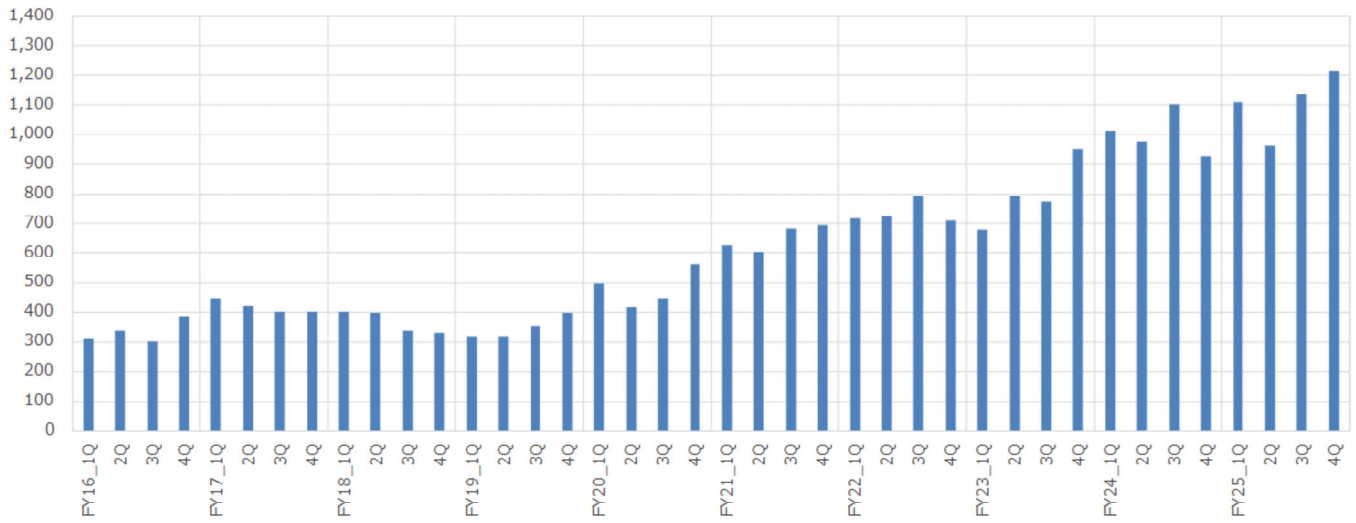
FY25_4Q 海外売上高比率 87.6%

地域別の売上推移です。こちらは参考としてご覧ください。

出荷額推移



(単位：億円)



FY25_4Q 出荷額 1,216億円 (過去最高)

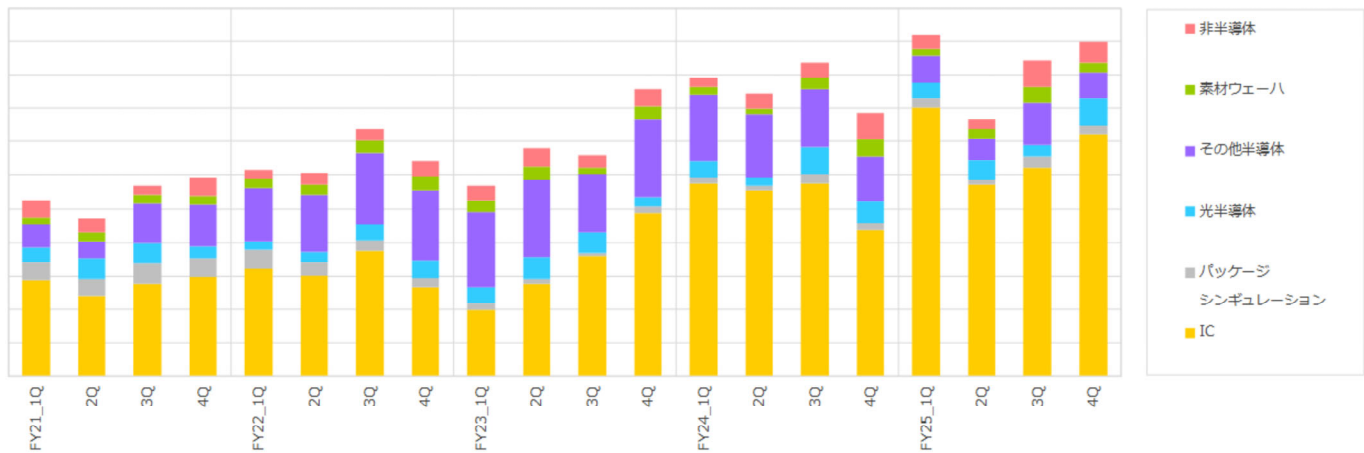
市場との連動性が高い「出荷額」の四半期推移です。

1-3月期の出荷額は1,216億円となりました。

好調な生成AI向けに加え、OSAT向けにも動きが出てきたことで装置出荷が伸長しました。加えて顧客の設備稼働率などに連動して消耗品である精密加工ツールの出荷も増加したことで、四半期の出荷額としては過去最高を更新しました。

出荷額ベース

精密加工装置



QoQ 生成AI向けを中心に、IC向けの増加が全体を押し上げた
YoY 旺盛な生成AI需要を背景にIC向けが伸長

精密加工装置全体（ブレードダイサ、レーザソー、グラインダなど※）の用途別を「出荷額ベース」で記載しています。

※用途別の分類が困難な周辺装置は除いています。

1-3月期 QoQ

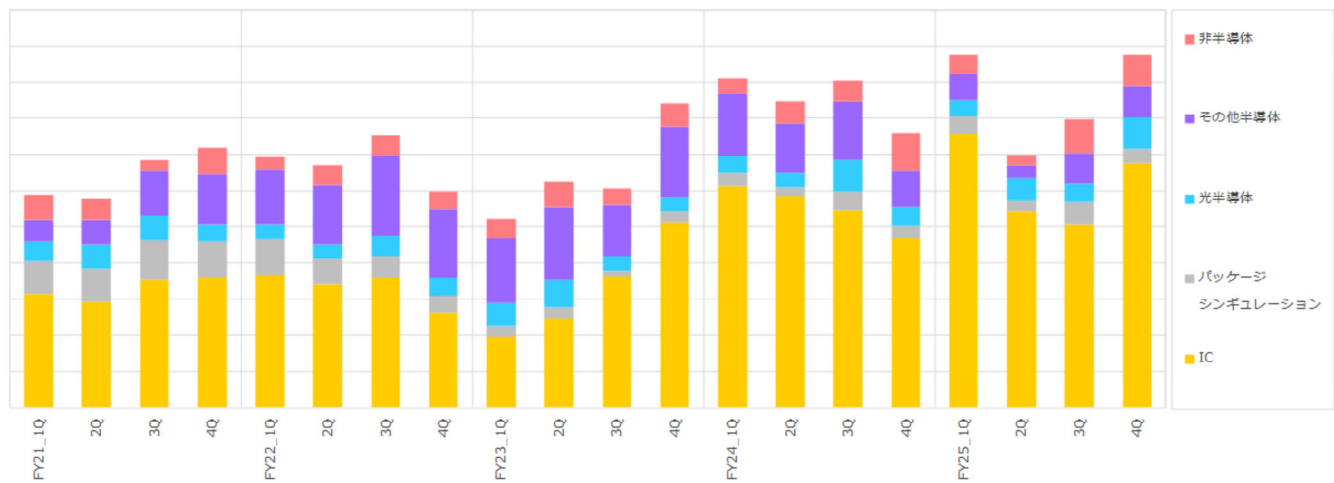
IC：メモリ向けが増加しました。ロジック向けも生成AI及びOSAT向けを中心に高水準で推移しました。

光半導体：CMOSイメージセンサ向けを中心に増加しました。

その他半導体：EV需要停滞などを背景に、パワー半導体向けが減少しました。

出荷額ベース

ダイサ



QoQ 生成AIおよびOSAT向けを中心にIC向けが増加
 YoY その他半導体（主にパワー半導体）向けが減少するもIC向けが増加

精密加工装置の内、ダイサ（ブレードダイサ、レーザソー）の用途別を「出荷額ベース」で記載しています。

1-3月期 QoQ

IC：メモリ向けが増加しました。ロジック向けも生成AI及びOSAT向けを中心に高水準で推移しました。

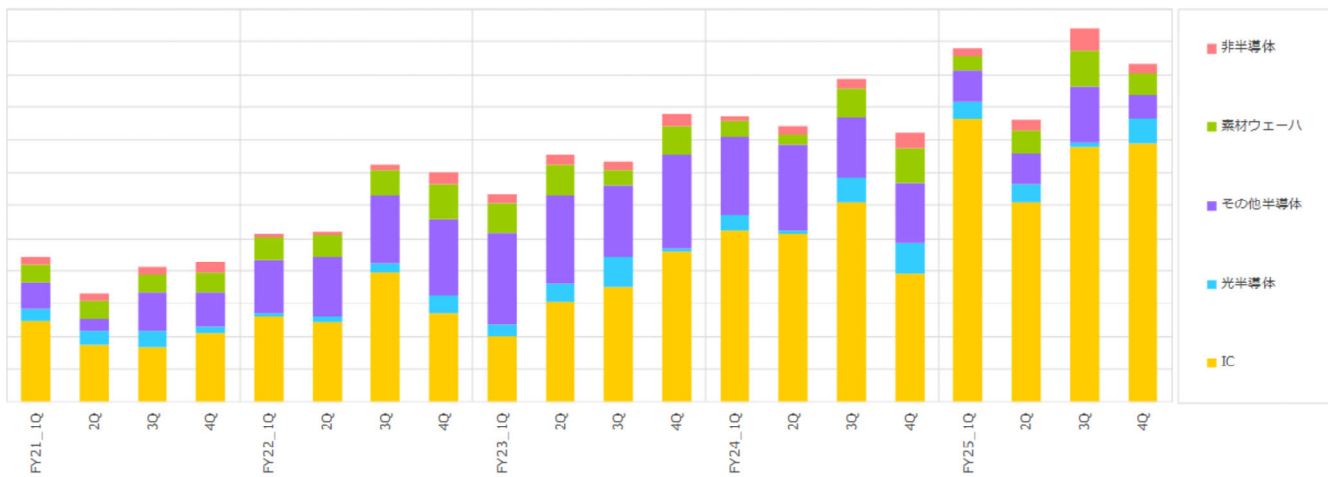
光半導体：CMOSイメージセンサ向けを中心に増加しました。

なお、用途別の構成比や増減率などの詳細データは資料後半に記載しています。

グラインダ用途別

出荷額ベース

グラインダ



QoQ IC向けは堅調に推移するも、その他半導体（主にパワー半導体）向けが減少
 YoY その他半導体（主にパワー半導体）向けが減少するもIC向けが増加

精密加工装置の内、グラインダの用途別を「出荷額ベース」で記載しています。

1-3月期 QoQ

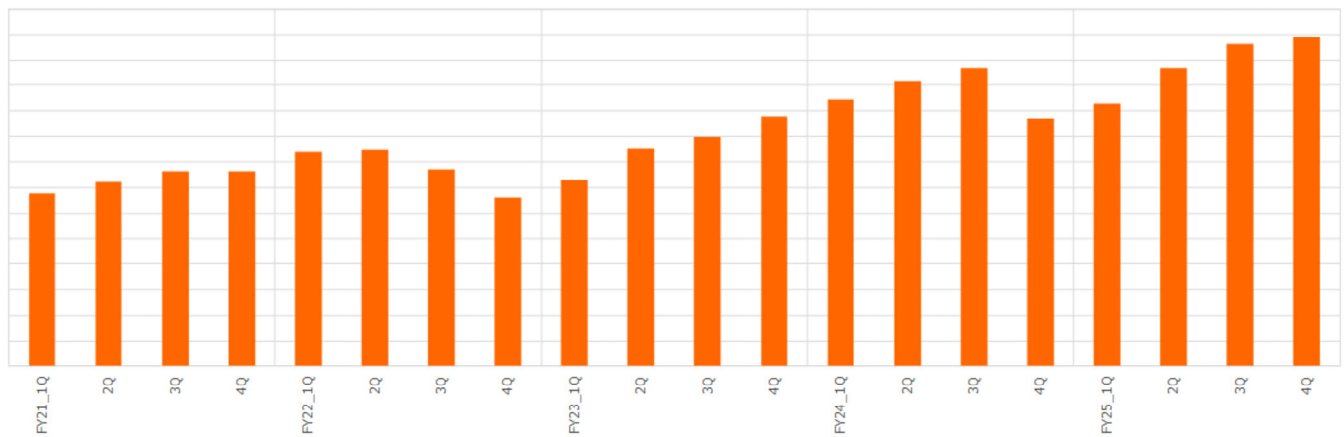
IC：メモリ向けが増加しました。ロジック向けも生成AI及びOSAT向けを中心に高水準で推移しました。

光半導体：CMOSイメージセンサ向けを中心に増加しました。

その他半導体：EV需要停滞などを背景に、パワー半導体向けが減少しました。

素材ウェーハ：ウェーハメーカ向けが減少しました。

なお、用途別の構成比や増減率などの詳細データは資料後半に記載しています。



顧客の設備稼働率等を背景に前四半期から増加し過去最高を更新

消耗品である精密加工ツールの売上推移です。（出荷＝売上計上）

顧客の高い設備稼働率や為替影響等を背景に、前四半期から増加となり、過去最高の出荷を記録しました。

今後の顧客の設備稼働率や最終製品の需要動向を注視しています。

為替レート

当四半期 1-3月期 USD:156.5円 EUR:183.5円

前四半期 10-12月期 USD:155.7円 EUR:181.4円

前年同期 1-3月期 USD:151.2円 EUR:159.3円

バランスシート(抜粋)



(単位：百万円)	FY2025	FY2025	差額
	4Q	3Q	
現金及び預金	284,575	246,143	38,432
受取手形・売掛金	57,477	50,761	6,717
棚卸資産	141,325	141,596	-271
流動資産	494,572	446,956	47,616
有形固定資産	223,241	211,567	11,673
固定資産	248,838	231,307	17,531
総資産	743,410	678,263	65,147
流動負債	154,458	134,719	19,739
固定負債	826	932	-106
負債合計	155,285	135,652	19,634
純資産	588,125	542,611	45,514
負債純資産合計	743,410	678,263	65,147
自己資本比率	78.9%	79.8%	-0.9p

総資産：主に現預金や有形固定資産が増加
 負債：主に賞与引当金や未払法人税が増加
 純資産：主に利益剰余金が増加

バランスシートは、3月末と12月末を比較しております。
 ポイントはスライド記載の通りです。詳細は決算短信をご参照ください。

キャッシュフロー(抜粋)



(単位：百万円)	FY2025 Full Year	FY2024 Full Year	差額
営業キャッシュ・フロー	133,543	120,364	13,179
税前当期利益	183,811	168,146	15,665
減価償却	14,821	12,198	2,623
売上債権の増減	-11,009	2,874	-13,883
棚卸資産の増減	-207	-24,596	24,389
仕入債務の増減	-10,694	-4,795	-5,899
法人税支払い	-55,110	-37,738	-17,372
その他営業CF	11,931	4,276	7,656
投資キャッシュ・フロー	-135,769	-68,002	-67,766
有形固定資産の取得	-35,143	-66,861	31,718
その他投資CF	-100,625	-1,141	-99,484
フリー・キャッシュ・フロー	-2,225	52,362	-54,587
財務キャッシュ・フロー	-45,035	-38,150	-6,885
配当金支払い	-45,309	-38,467	-6,842
現金同等物増減	-44,591	13,680	-58,272
期首残高	229,167	215,486	13,681
期末残高	184,575	229,167	-44,591

- 営業CF…約1,335億円 資金増加
主に税前利益による資金増加
- 投資CF…約1,357億円 資金減少
有形固定資産の取得および
定期預金での支出(1,000億円)が発生
- フリー・キャッシュ・フロー
約22億円の資金減少
- 財務CF…約450億円 資金減少
主に配当金の支払い
- 3月末の現金残高 約1,845億円

補足：
BS上の現金預金の残高 約2,845億円
追加配当に関わる余剰資金は、BS上の「現金
及び預金」の残高を踏まえて計算

キャッシュ・フローの抜粋です。

前年度と比べ、フリー・キャッシュ・フローが大きく減少していますが、これは定期預金の支出が影響しています。そのため、現金同等物の残高は減少しておりますが、預金を含めた実質的なキャッシュ残高(現預金残高)水準は前年度より増加しています。

後述する余剰資金からの配当については、キャッシュ・フロー計算書の「現金及び現金同等物」ではなく、バランスシート上の「現金及び預金」を踏まえて計算しております。

キャッシュ・フローの詳細については、決算短信をご参照ください。

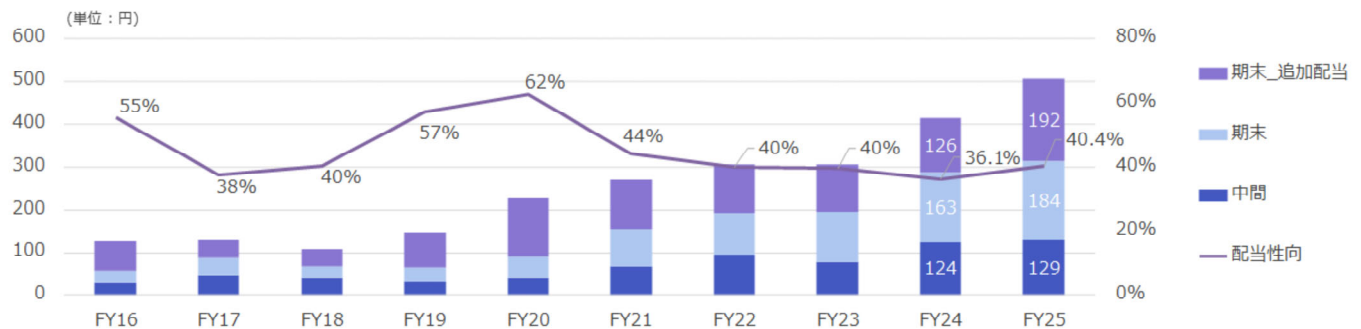
配当政策および配当額



【配当方針】

1. 期末、中間の年2回、連結半期純利益の25%を配当する
2. 安定配当として半期10円（年間20円）を維持。ただし3期連続で連結純損失の場合を除く
3. 年度末時点で赤字の場合を除き、配当及び法人税支払い後の現預金残高が予定必要資金額(*)を超過した場合は、上記1.に加え、超過金額の3分の1を目処に配当に上乗せする（追加配当）

*技術購入予備費（技術特許購入、ベンチャーへの出資等）および設備拡張資金、有利子負債返済資金など



FY25 実績 中間：129円 期末：376円 年間：505円（過去最高）

※2023年4月1日付けで普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施
(FY22以前の配当推移は当該株式分割が行われたと仮定して記載)

期末の配当です。

下期業績の実績および3月末の余剰資金に基づき計算しております。

下期業績連動分として184円、

余剰資金の1/3からの追加配当分として192円、

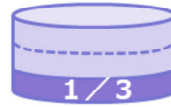
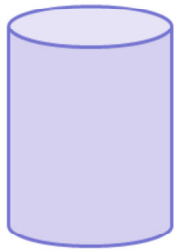
期末合計で376円とさせていただきます。

年間配当は過去最高となり、7期連続の増配となりました。

※グラフはFY22以前の配当推移は株式分割が行われたと仮定して記載しております。

追加配当の計算式

$$\text{年度末現預金 } 2,185 \text{ 億円} \times \text{※} - \text{必要資金 } 1,561 \text{ 億円} = \text{余剰資金 } 624 \text{ 億円}$$



208億円

追加配当

必要資金の内訳

①	
運転資金 前期 連結売上高 ÷ 12ヶ月 × 2ヶ月	728 億円
技術購入予備費(M&A含む) 連結売上高 過去3年平均 × 10%	320 億円
長期有利子負債返済資金	-
税金・配当等	349 億円
②	
設備拡張資金 広島新工場等	164 億円

※ 契約負債（前受金）金額などを考慮

こちらは余剰資金計算に係わる資金の内訳です。

スライド左記載の「年度末現預金」は、契約負債（前受金）などを考慮するため、バランスシート上の現預金と一致しませんのでご注意ください。

今後、必要な資金についてはスライド右に記載の通りです。

(単位：億円)

今回予想

	FY25 1Q	2Q	3Q	4Q	FY26 1Q
売上高	899	1,046	1,093	1,331	1,061
営業利益	345	444	473	588	420
経常利益	340	455	470	585	423
純利益	238	321	367	429	295
営業利益率	38.4%	42.4%	43.3%	44.2%	39.6%
経常利益率	37.8%	43.5%	43.0%	44.0%	39.9%
純利益率	26.5%	30.7%	33.6%	32.2%	27.8%
出荷額	1,111	963	1,136	1,216	1,320

※億円未満四捨五入

想定為替レート 1Q (4-6月期)
為替感応度 (年換算)US\$: 157円
US\$: 約17億円Euro : 181円
Euro : 約1億円

業績の見通しです。当社は、顧客の投資意欲が短期間で激しく変動することから、需要予測が困難なため、従来(2018年)から業績予想開示は「1四半期先までの開示」としております。売上計上の基準は「検収時点」となっており、顧客の検収タイミングによって、業績が変動いたします。

今回は4-6月期の業績見通しを開示いたします。

引き続き堅調な出荷が続く想定のもと、前年同期と比べ増収増益を見込みます。

市場動向を表す出荷額は、四半期として過去最高額を見込んでおります。

引き続き生成AI関連の需要が強く、当社工場も繁盛状況が継続しております。

【ご参考】製品別見通し

出荷額ベース

製品群		見通し FY26_1Q 増減率 (QoQ)
ダイサ	ブレードダイサ	15%
	レーザソー	15%
	ダイサ	15%
	グライнда	25%
	周辺装置	15%
精密加工装置		20%
精密加工ツール		0%
その他		-20%

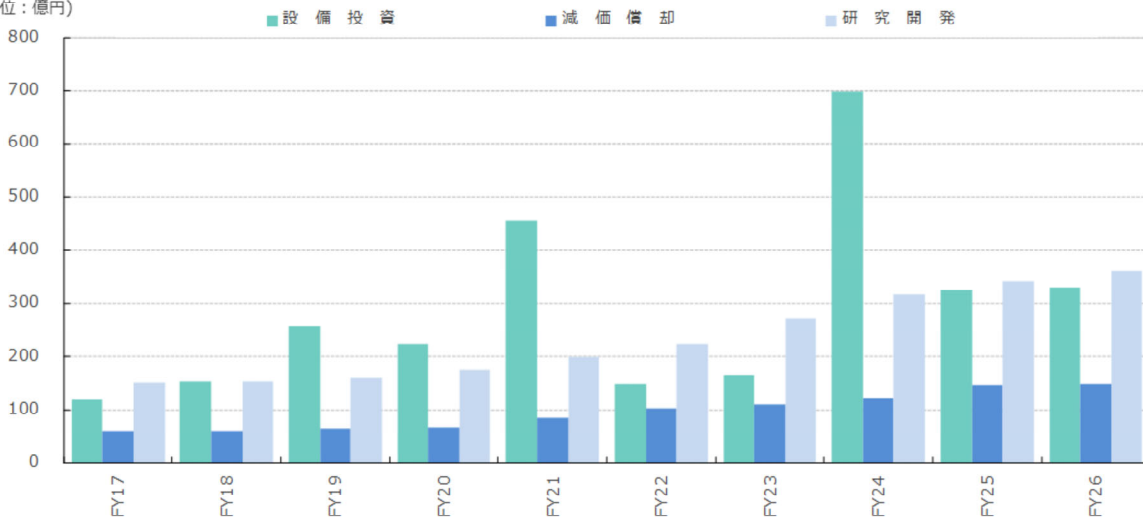
こちらは、製品群別、出荷額ベースでの見通しです。

2026年度4-6月期(FY26_1Q)の製品別出荷見込みを概算のQoQ増減率で示しています。
参考としてご覧ください。

R&D/CAPEX 見通し



(単位：億円)



FY26見通し
 設備投資：約330億円 合理化投資、羽田R&Dセンター建替、新工場建築を含む
 減価償却：約150億円
 研究開発：約360億円 積極的な研究開発活動を継続

研究開発や設備投資などの実績と見通しです。

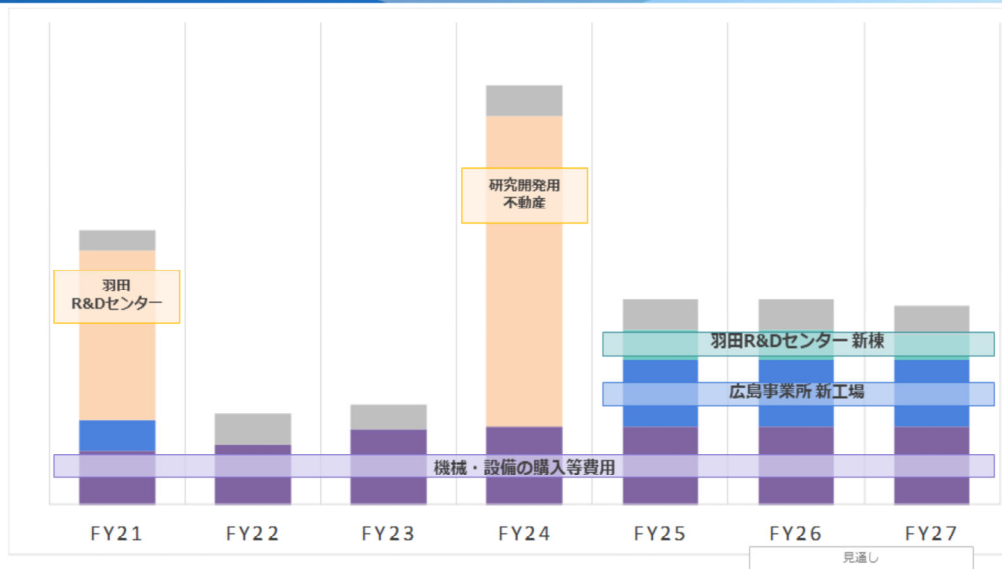
引き続き会社を強くするために必要な投資を積極的に行っていくため、今後も高水準の設備投資が継続する見込みです。

【FY25実績】

設備投資：327億円

減価償却：148億円

研究開発：341億円



研究開発用不動産	約500億円	支出時期：FY24
羽田R&Dセンター 新棟	約140億円	支出時期：FY25～FY27
広島事業所 新工場	約330億円	支出時期：FY25～FY27

こちらは、設備投資の内訳イメージです。

羽田R&Dセンター新棟や広島事業所新工場などの支出が続く予定で、機械・設備など合理化投資の金額と合わせて、年間300億円超の設備投資金額が継続する見通しです。

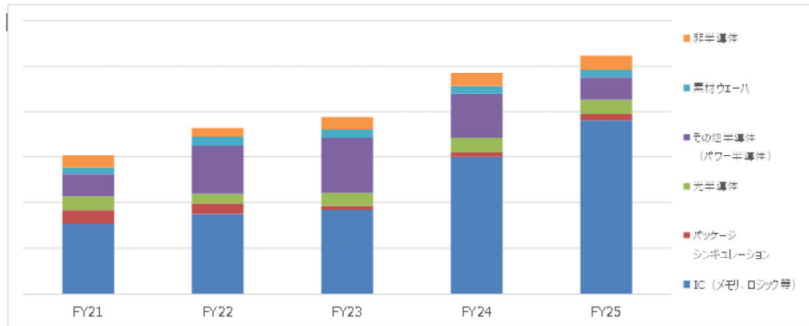
参考プレスリリース

「羽田R&Dセンター」新棟建設を決定（2023年10月19日）
<https://www.disco.co.jp/jp/news/corp/20231019.html>

広島事業所 郷原工場の建築を決定（2025年4月18日）
<https://www.disco.co.jp/jp/news/corp/20250418.html>

■ 出荷動向：生成 A I 向け装置出荷が伸長

半導体パッケージ技術の複雑化・高度化が追い風
高付加価値製品がメモリ・ロジック向けの出荷額を押し上げ

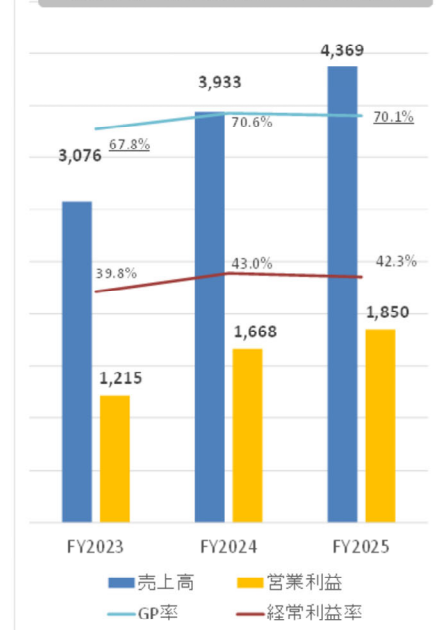


■ 業績：6期連続最高益を更新、収益性は高水準

G P 率70%超、経常利益率40%超を2期連続で記録
技術、内製化、生産効率化など各種改善が収益力強化に寄与

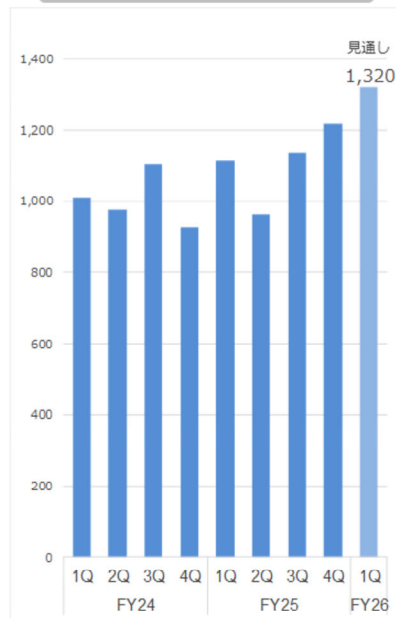
■ 最高益および余剰資金より年間配当505円（過去最高）

業績推移 (検収基準) 単位：億円



2026年度 今後の見通しと取り組み

出荷額 四半期推移 単位：億円



■ **生成A I 関連を中心に設備投資意欲は引き続き堅調**
高付加価値製品の出荷が継続する見通し
A I 以外の用途の需要動向も注視

■ **先端パッケージ技術は用途拡大および本格立ち上がりに期待**

■ **国際情勢が事業環境に与える影響を注視**
調達・コスト動向を注視しつつ、BCM強化の取り組みを継続

■ **量の質を高め、会社を強くする投資を継続**
技術開発力の強化および供給責任を果たすための生産能力向上へ
Fab Important戦略のもと、積極的な設備投資を継続
(羽田R&Dセンター新棟、広島事業所郷原工場、他)

■ **良質な企業文化は会社を強くする源泉**
DISCO VALUES、Will会計、PIM活動など、
「会社を強くする」取り組みに引き続き注力

参考 通期推移 グラフ集

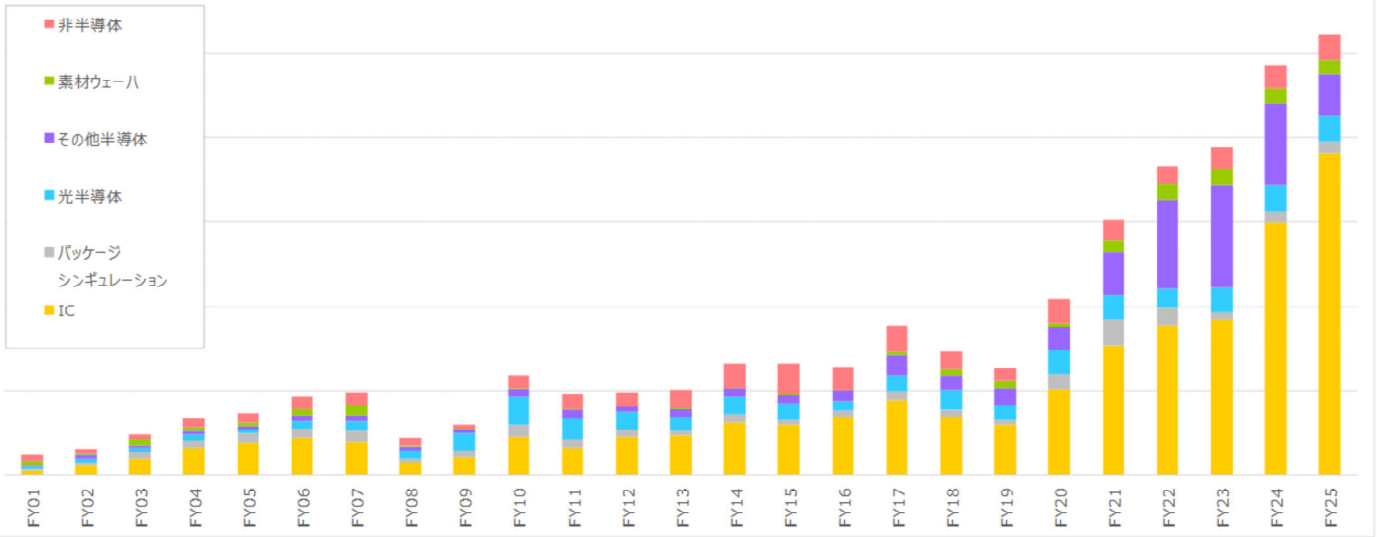
精密加工装置 用途別売上高



出荷額ベース

通期

精密加工装置

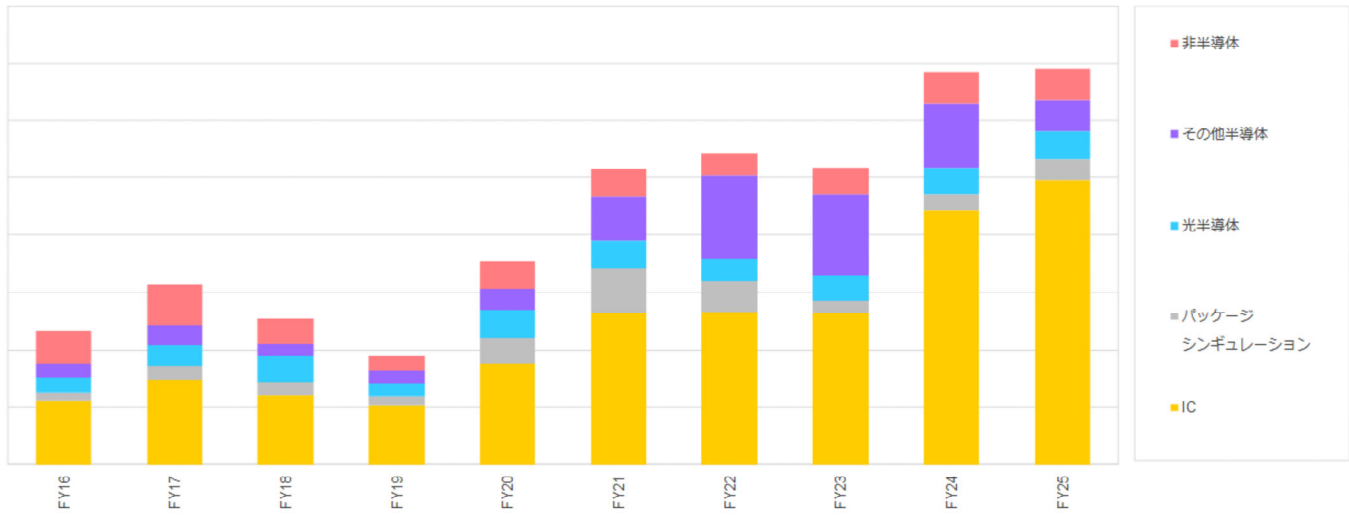


ダイサ用途別売上高

出荷額ベース

通期

ダイサ



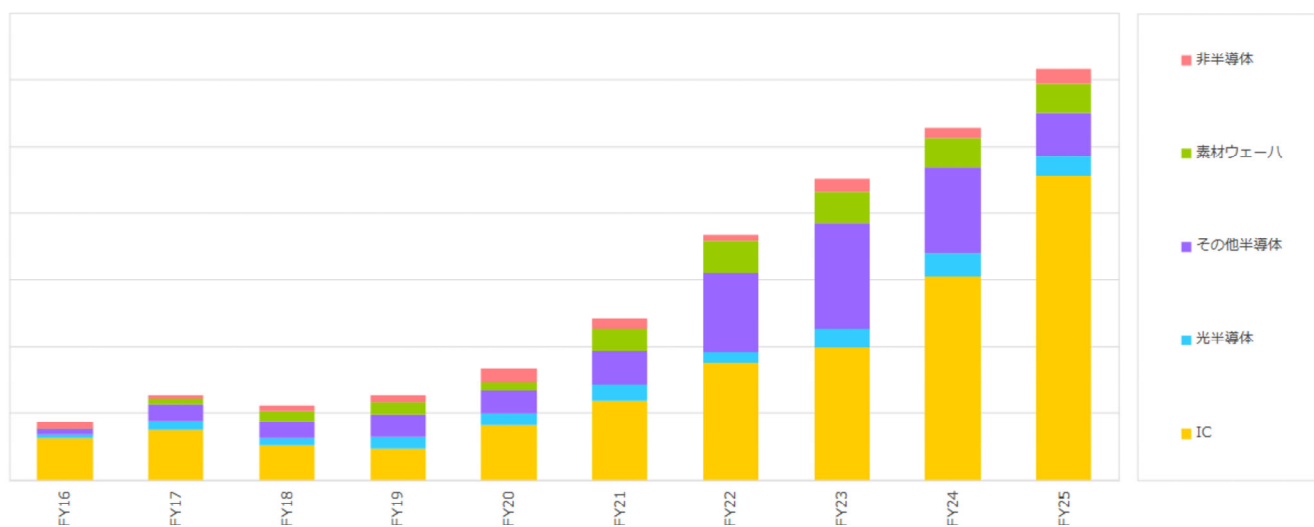
グラインダ用途別売上高



出荷額ベース

通期

グラインダ

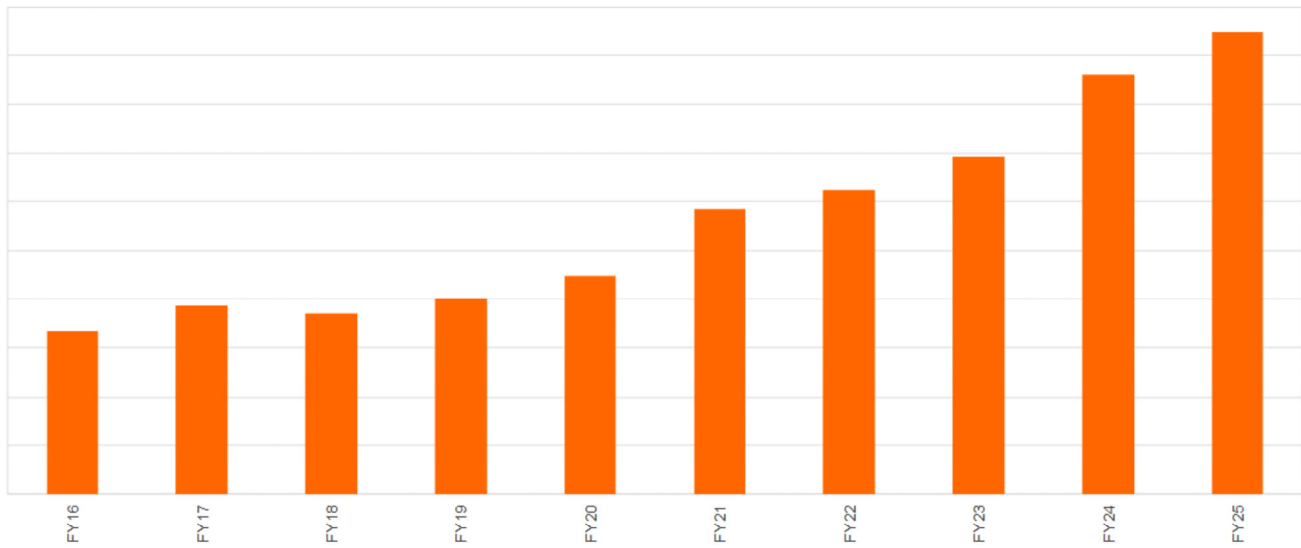


精密加工ツール売上高



出荷額ベース

通期



【参考】製品群別 用途別 データ集

出荷額ベース

■ 製品群	4Q			Full Year	
	構成比	QoQ	YoY	構成比	YoY
精密加工装置合計	62%	9%	28%	62%	7%
内、ダイサ	32%	23%	29%	31%	1%
ブレードダイサ	16%	28%	36%	16%	3%
レーザソー	16%	18%	22%	15%	-1%
内、グラインダ	25%	-9%	26%	28%	17%
内、周辺装置	4%	69%	44%	3%	-2%
精密加工ツール	21%	2%	31%	21%	9%
その他	17%	7%	46%	16%	26%
出荷額合計	100%	7%	31%	100%	10%

【ご参考】用途別 構成比



出荷額ベース

製品	用途	FY24				FY25			
		24-1Q	24-2Q	24-3Q	24-4Q	25-1Q	25-2Q	25-3Q	25-4Q
ダイサ	1_IC	67%	69%	60%	62%	78%	78%	64%	69%
	2_パッケージ・シグナレーション	4%	3%	6%	4%	5%	4%	8%	4%
	3_光半導体	5%	5%	10%	7%	5%	9%	6%	9%
	4_その他_半導体	19%	16%	18%	13%	7%	5%	11%	9%
	5_非半導体	5%	7%	7%	14%	6%	4%	11%	9%
ダイサ		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
グラインダ	1_IC	60%	61%	62%	48%	80%	71%	68%	76%
	2_光半導体	6%	1%	8%	11%	5%	6%	1%	8%
	3_その他_半導体	27%	31%	19%	22%	9%	11%	15%	7%
	4_素材ウエーハ	6%	4%	9%	14%	4%	8%	10%	6%
	5_非半導体	2%	3%	3%	6%	2%	4%	6%	3%
グラインダ		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

【ご参考】用途別 YoY



出荷額ベース

製品	用途	FY24				FY25			
		24-1Q	24-2Q	24-3Q	24-4Q	25-1Q	25-2Q	25-3Q	25-4Q
ダイサ	1_IC	210%	135%	50%	-8%	23%	-7%	-7%	44%
	2_パッケージ・シキレーション	23%	-15%	270%	7%	33%	14%	24%	22%
	3_光半導体	-26%	-46%	112%	26%	-5%	50%	-47%	64%
	4_その他_半導体	-3%	-33%	15%	-48%	-58%	-72%	-45%	-13%
	5_非半導体	-17%	-13%	26%	65%	34%	-54%	55%	-17%
ダイサ		75%	36%	49%	-10%	7%	-17%	-12%	29%
グラインダ	1_IC	160%	68%	73%	-14%	66%	18%	28%	101%
	2_光半導体	46%	-86%	-15%	819%	-1%	652%	-84%	-14%
	3_その他_半導体	-16%	-4%	-15%	-37%	-59%	-63%	-5%	-61%
	4_素材ウエーハ	-45%	-62%	79%	26%	-8%	104%	28%	-42%
	5_非半導体	-50%	-24%	19%	31%	46%	29%	125%	-34%
グラインダ		37%	11%	34%	-6%	24%	2%	16%	26%

【ご参考】用途別 QoQ



出荷額ベース

製品	用途	FY24				FY25			
		24-1Q	24-2Q	24-3Q	24-4Q	25-1Q	25-2Q	25-3Q	25-4Q
ダイサ	1_IC	20%	-4%	-7%	-14%	62%	-28%	-7%	33%
	2_パッケージ・シグナレーション	14%	-34%	119%	-35%	43%	-44%	138%	-36%
	3_光半導体	10%	-12%	115%	-40%	-16%	40%	-23%	83%
	4_その他_半導体	-11%	-22%	19%	-37%	-28%	-48%	134%	0%
	5_非半導体	-34%	46%	-3%	77%	-47%	-50%	227%	-5%
ダイサ		8%	-7%	7%	-16%	29%	-29%	14%	23%
グラインダ	1_IC	14%	-2%	18%	-35%	120%	-30%	28%	2%
	2_光半導体	402%	-85%	952%	20%	-46%	10%	-78%	547%
	3_その他_半導体	-17%	10%	-29%	-3%	-46%	-1%	80%	-60%
	4_素材ウエーハ	-45%	-29%	148%	29%	-59%	56%	56%	-41%
	5_非半導体	-59%	62%	24%	61%	-55%	44%	115%	-53%
グラインダ		-1%	-4%	17%	-16%	31%	-20%	32%	-9%

【ご参考】地域別 構成比 アジアの内訳



検収ベース

■ 構成比	FY2024				FY2025			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	9%	11%	12%	10%	10%	10%	9%	12%
アメリカ	15%	10%	8%	15%	9%	8%	6%	9%
アジア	69%	72%	74%	66%	75%	75%	79%	73%
シンガポール	6%	8%	8%	7%	7%	7%	10%	9%
台湾	16%	17%	19%	22%	27%	28%	28%	26%
韓国	14%	12%	9%	9%	9%	10%	6%	6%
中国 ※	32%	33%	37%	27%	30%	28%	34%	31%
その他	1%	1%	1%	2%	3%	2%	1%	1%
ヨーロッパ	7%	7%	5%	9%	6%	7%	6%	6%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※外資メーカー現地工場向け含む

**当社ではMissionの実現性の向上に取り組むことで、
結果として企業価値の向上と競争力向上に繋がり、
資本市場の皆さまの期待に応えることができると考えています**

- ✓ 事業の質の追求
- ✓ 自己資金の活用と目的
- ✓ 株主還元方針
- ✓ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

上記の考え方について[詳しくはこちら](#)をご確認ください

ご参考 ディスコ株保有を検討される皆様へ

当社の考え方をご理解いただく一助として、ぜひご参照ください。

https://www.disco.co.jp/jp/ir/mginfo/msg_share.html

本資料について

掲載内容に関しては細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や第三者によるデータの改ざん等に関し、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本資料は投資勧誘を目的にしたものではありません。投資はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

表記について

年間の会計期間である4月～翌年3月までをFY (Fiscal Year) と表記し、四半期の会計期間は4-6月を1Q、7-9月を2Q、10-12月を3Q、1-3月を4Qと表記しています。

金額単位に応じて、単位未満の金額を四捨五入または切り捨て処理しており合計値が合わない場合があります。

%は実際の金額を基に算出しています。

将来の見通しに関する注意事項

この資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。実際の業績はさまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

英語圏の方々のために英語資料を提供する場合、和文(原文)と英訳の内容が相違した際は和文の内容が優先されます。

本資料の著作権は当社に帰属しており、無断での転載は禁じられています。私的使用その他法律によって明示的に認められる範囲を超えて、本資料を使用(複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、ライセンス、販売、出版等を含む)するためには、当社の事前の明示の許諾が必要です。

<https://www.disco.co.jp/>